

事業計画書

1. 団体名	はるのひ - 春日部を未来につなぐ会 -
2. 事業名	自然と人とぬくもりと。 100 年先へ紡ぐ私たちの春日部プロジェクト
3. 本支援金活用回数	☐ 1 回目 ☒ 2 回目 ☐ 3 回目
他補助金との併用	☒ 併用なし ※初回は 10 / 10 交付・2 回目以降は 3 / 4 交付 ☐ 併用あり（補助金名： ）※申請中含む
4. 対象	対象となる地域や地域住民を記入してください。
亀岡市曾我部町春日部区民、移住者、農地を借りている新規就農者、近隣の地域住民、Instaglam・亀岡市の LINE 配信を見てイベント参加してくれた大阪府、京都市等近隣住民、また里帰りの子育て世帯等	
5. 期間	実施期間を記入してください。 ※対象期間は最大で令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日までです。
令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日	
6. 地域課題・事業目的	地域課題と事業の目的を記入してください。
地域課題（どのような地域課題があり、誰がどのように困っているのか）	
課題（現状とそれにより誰がどのように困っているのか）	
① 【地域住民の高齢化、人間関係の希薄化】 亀岡市曾我部町の高齢化率は、全体で 47%。町内には 12 区あり、区単位によって高齢化率に差異はあるが、40%を超える区が 9 区に上り、うち 6 つの区で半数以上が 65 歳以上となっている。（2020 年国勢調査による） 春日部区は曾我部町の最南端に位置し、高齢化率は 32% と曾我部町内では低い数値であるが、かつては小学生 20 名以上が列をなして小学校へ通っていた地域である。現在は小学生 3 名、子供会は人手不足のため休会している。かつて盛んだった区内での地域の活動（春日部区民運動会や婦人会、子ども会）は、世代を超えた交流が自然とでき、地域の中で温かく見守られて育つ子どもたちの姿があった。しかし、現在は、そのような地域活動がなくなってしまった。近くに住んでいても、あいさつほどの会話で関係性が希薄になり、お隣さんが困っているかどうか分からない、家庭内のことは特に見えにくくなってしまっている状況である。 また、曾我部町内には、近年、新興住宅地が増えているが、他地域から来た子育て世代の家族と地元住民との交流の機会が少なく、コミュニケーションが生まれる場所が少ないため、多世代での情報共有、交流、相互理解等が課題である。	

② 【伝統行事・文化が継承できない】

核家族化が進み、若者は実家を離れて暮らす今、かつては三世代・四世代の暮らしの中で伝えられてきた伝統行事や伝統文化の維持継承が、困難となっている。代々受け継がれてきた伝統行事、伝統文化に触れる機会が減少することで、若い世代の理解が乏しくなり、伝承が難しくなるためである。

次世代に伝えていきたいのにもかかわらず伝えていけないもどかしさ、伝統文化が途絶えてしまうことへの寂しさを抱える高齢者がいる。

③ 【伝統食を伝える機会がない】

かつては、農業と共に地域住民の暮らしがあり、農作業の日や祭り、盆正月には、親戚や近隣住民が集まり、各家々で振舞われてきた伝統食があった。伝統食を知っている数少ない高齢者が、次世代に伝承したいと願っていて、機会があったら学びたい若者がいる。ただ両者をつなぐ場がないことが課題である。

④ 【しまい込んでいる人形・生活道具】

現在、高齢者のみの世帯で、かつては雛祭り・端午の節句等四季折々の伝統行事を子ども、また孫と共に過ごしてきたが、時代を経て、役目を終えた雛飾りや五月人形が蔵や押し入れに眠ったままとなっている。しまいっぱなしの人形のことが気にはなっているが、自宅に飾る気力も、体力もなく自分一人の力では飾ることができないという話が聞かれる。しかし、人形を処分するにも子や孫と過ごした思い出や贈られた人（実家の両親）の想いを無下にできないと悩んでいる高齢世帯が何軒もある。中には、昭和の初期のものや大正時代のもも含まれており、大切に守っていきたいが、飾る場がなく、自宅に飾っても見てもらう人がいない状況が課題である。

事業の目的（上記の課題をどのような解決結果に導きたいのか）

・ **多世代がつながる場を創る**：地域住民同士の世代間を超えての交流や協力を促進し、地域の結びつきを深めることで、持続可能な地域づくりを支援する。顔の見える関係を作ることで、子どもたちや高齢者に対する地域の安全な見守りの機能も期待できる。

・ **地域の魅力発信と地域の活性化**：地域住民と共に、地域の魅力を発信するイベントを開催し、曾我部・別院地域の住民に足を運んでもらうきっかけとなり、地域創生を目指す。地域の自然の豊かさや文化、観光資源を活用することで、地域の魅力を再発見し、住民や訪問者の関心を引きつけ、地域の活気を促進する。

・ **人口減少の抑制**：若者や子育て世代の定住促進や、帰省を促し、外からの移住者を呼び込むことで、地域の人口減少に歯止めをかけることを目指す。

・ **伝統文化を伝える**：伝統文化や四季折々の行事を体験するイベントを通して、亀岡の伝統的な暮らしを知ってもらい、昔ながらの風習、行事一つ一つに込められた意味深さなどを伝える。また、若い世帯や子育て世代が地域のお年寄りと交流でき、実家に帰ったような温かい人間関係が築ける

場を作る。

・**伝統食・食育の発信**：季節ごと、行事ごとに食べられてきた伝統食を次世代に伝承していく食育のイベントを通して、亀岡の伝統食を魅力として発信していく。伝統食の専門の講師の方をお招きして、地域住民が学び、子育て世代に体験型のイベントを通して伝えていく。

・**地域資源の新たな価値の創造**：地域資源の再発見と活用：地域に眠る資源や伝統文化を再評価し、それらを活用した新たな産業や観光資源の創出を促進する。しまい込んでいる人形や生活道具などに、新たな価値を見出し、それを活用して、観光に来る人を呼び込みたい。歴史的に貴重な物を大切に守ること。活動を通して、元気な地域を発信することで、都会にない人間関係の温かさや、文化・食・自然の豊かさなどを求めて、この地域を選択してくれる将来の移住者や、Uターン移住者の移住の決め手の一助になることを期待する。

事業目的（上記の地域課題をどのような解決結果に導きたいのか）

・『四季折々の伝統をつなぐ』事業…先人の方々が、伝承してきた地域の風習、四季折々の伝統行事にちなんだ伝統食を次世代に伝えていくために、体験型の食育イベントを開催する。地域にも伝える人がいない伝統食については、講師を呼んで住民自身が学び、子育て世代に伝えていくことができる。

また、その様子を地域の魅力として地域内外へ発信することで、地域住民自身が地域の魅力を再発見することができ、地域住民の意欲が向上し地域が活性化する。

・『豊かな自然発信』事業…地域の豊かな自然を守り、魅力を発信する。曾我谷川のホタルの鑑賞会、筍掘りなど自然豊かな曾我部町ならではのイベントを企画することで、地域の魅力を地域外へアピールすることができる。

・『はるのひ憩いの場』事業…大切にしてきた人形などの展示を通して、展示して公開するという一つの目的を達成するために地域住民が協力し、交流することで、地域住民同士の世代間を超えての交流や協力を促進し、地域の結びつきを深めることで、持続可能な地域づくりを支援する。

また、顔の見える関係を作ること、子どもたちや高齢者に対する地域の安全な見守りの機能も期待できる。

さらに、疎遠になっていた親戚、孫たちの帰省が促されたり、Uターン移住などのきっかけの一助になることを期待したい。また、田舎の伝統行事を体験したい地域外からの観光の集客を増やし、関係人口を増やしていくことにつなげる。

7. 事業内容		上記の課題を解決するためになにを実施するのか具体的に記入してください。
事業の実施概要		
4 月	ひなまつり	音楽イベント
5 月	五月人形	公開展示
5 月	五月人形	食育イベント
6 月	ホタル観賞会	
12 月	しめ縄づくり	体験イベント
3 月	ひなまつり	公開展示
3 月	ひなまつり	食育イベント
※はるのひミーティング イベント前後 月 1 回		
●スケジュール（会議、準備、イベント、検証などをいつ行うか計画を記入してください。）		
日程	内容（活動内容・参加費・場所など具体的に記入）	場所・会場
4 月 4 日 4 月 5 日～	ひなまつり 音楽イベント【津軽三味線演奏会 風音さん】 片付け	曹流寺内
4 月 19 日～	五月人形 公開展示準備 公開イベントのミーティング	//
4 月 26 日～ 4 月 26 日	五月人形 公開展示開始 こいのぼりの設置 食育イベントのミーティング	// 曹流寺畑
5 月 4 日 5 月 5 日	五月人形 食育イベント準備 五月人形 食育イベント【編み笠団子作り 講師松本先生】	曹流寺内 //
5 月 16 日 5 月 17 日 5 月 18 日～	五月人形公開最終日 振り返り総会 片付け開始	曹流寺内 // //
6 月上旬	ホタル観賞会	曹流寺周辺の 曾我谷川沿い
12 月下旬	しめ縄づくり(春日部区の役員さんに教えていただく)	春日部区公民館

2月中旬	ひなまつり 展示・食育イベントミーティング	曹流寺内
	ひなまつり 公開展示準備	
3月1日頃	ひなまつり 公開展示開始	
	ひなまつり 食育(餅つき)イベント	

●情報発信方法

発信媒体（チラシ、SNSなど）	発信量	広報範囲（配布範囲、掲示場所等）
Instagram	イベント毎に2回	インターネット
Facebook	イベント毎に2回	インターネット
チラシ	五月人形公開展示 編み笠団子作り ホタル観賞会 ひなまつり公開展示 餅つきイベント 音楽イベント(計6回)	亀岡市 LINE 配信、曾我部自治会、 京・こむすび協議会掲示他
はるのひ新聞	5回/年	曾我部町内回覧板、京・こむすび協議会 掲示他

8. 目標

事業実施に当たって下記の目標を具体的に記入してください。

① 事業による変化・成果目標

事業実施に当たって下記の目標を書いてください。

- ・地域住民がつながり、会う回数が増え、会話が增えること
- ・多世代間の地域住民の交流が生まれること
- ・伝統食をはじめとする食育の機会が持て、子どもたちに伝わること
- ・しまい込んでいる人形等が日の目を見て、思い出話に花が咲き、住民同士に交流・会話が生まれること
- ・地域の魅力と課題を住民同士で話し合い、新たな活動を企画していくこと
- ・関係人口が増えること

② 上記①を達成するための実施目標数値（事業の回数や参加者数など）

実施回数：イベント	年5回	参加者 50 名
展示	年2回	参加者 120 名

9. 連携・協力	他の団体や行政機関などとの連携・協力について、連携・協力先の名称と具体的な連携・協力内容を記入してください。 ※記入にあたっては、連携・協力先との十分な事前協議を行ってください。	
亀岡市文化芸術課(名称後援、LINE 配信)、曽我部町自治会、春日部区、 京・こむすび協議会、 春日部ファーム、武山農園、白石ファーム、齋藤建設(株)、(株)山内工務店		
10. ステップアップの内容	※活動2年目以降の団体は以下の内容を具体的に記入してください。	
① これまでの事業実施時の課題と成果		
・引きこもりがちであった高齢女性が、事業を通じて外に出る機会が増え、会話が楽しいと居場所ができたことを喜んでいる。また、子育て世代の中でも地域に住むおばあちゃんの名前が知れて、地域外であっても挨拶をしたり、手を振ったりと日常的な関係性が生まれている。 ・人形の展示を通して、家族以外と会話をする機会がなかった地域住民と、はるのひのメンバーが年に一度でも顔を見て話ができることで、介護のストレスや家族の困りごとなどを聞いている。 ・人形を片付けながら、同郷の高齢女性同士で、嫁入りのときの話に花が咲き、若い世代が聞き役になるいい時間となっている。 ・里帰りをきっかけに、イベントに参加してくださる子育て世帯がおられた ・亀岡市のLINE 配信やInstagram をきっかけに遠方からの参加者がおられた ・曽我部町内の方にも口コミで広がり、来訪していただく数が増えた。		
② 今回申請の事業はこれまでの事業と比べて活動の充実をさせているのか		
・食育イベントに限らず、日本の伝統的な音楽を鑑賞するイベントを企画し、実地する。 ・公開展示は、年代別に、昭和初期、中期、後期、平成、令和と年代別に展示することで、観覧に来られた方が、人形の顔や着物などを見比べて、年代ごとの違いを楽しむことができるように工夫する。 ・春日部区域の持ち主のいるお人形たちを展示しているので、他の人形展示のイベントと差別化を図りたい。それぞれのお人形ごとに贈られた方の想いや、お郷の話、また、お人形をどのように飾ってお祝いをしてきたのかなど、歴史をストーリーにして、展示に加えたい。		
11. 次年度以降の展開	本支援金による支援終了後の事業展開について、資金の獲得や事業の継続展開をどのように行われる予定なのか、方法を具体的に記入してください。	
	実施内容	資金獲得方法（助成金・寄付金）
2年目	R8年度の事業継続と共に、住民からのアイデアを形にして、参加者を増やしたり、寄付金をより多くもらえる地域貢献できる活動にしていく	助成金、寄付金、イベント参加費
3年目	R9年度の事業継続と共に、住民からのアイデアを形にして、参加者を増やしたり、寄付金をより多くもらえる地域貢献できる活動にしていく	助成金、寄付金、イベント参加費

12. 審査会	審査会の発表順番は何番を希望しますか。いずれかに○をつけてください。 申請書の提出が早い団体の希望を優先して順番を決めます。
一番最初	
前半	○
後半	
一番最後	
13. 申請額に対して減額で交付決定となった場合も申請事業を実施しますか。 「はい」もしくは「いいえ」にレ点を入れてください。	
☒ はい ☐ いいえ	

※内容が本様式に入りきらない場合は適宜追加し、事業内容が分かる参考資料があれば添付してください。